

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 8 年 1 月 1 9 日（月）
用 務 先	①② 広島県庁 広島市中区国泰寺町 1－6－34 ③ 西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部広島支社 広島市東区上大須賀町 15－20
用 務	芸備線沿線議員連絡協議会 広島県知事・JR 西日本への要望活動・意見交換
概要及び所見 （目的、参考 にすべき事 項、提言、活用 策等）	【概要】 ①広島県知事 芸備線沿線議員連絡協議会の要請活動として広島県庁を訪問し、顧問である沿線 3 市選出の県議 3 名との意見交換ののち、沿線 4 市の市議会議員 12 名で横田美香広島県知事と面会した。 面会では、「ローカル線の安定的な維持・確保に向けた県の取組」を求める申入れを行い、これまでの各市議会における意見書の採択や国への陳情活動の経過についても報告した。その中で、県としての基本的な考え方についても示され、芸備線をはじめとするローカル線の維持に向け、県と沿線自治体が連携して取り組む必要性について認識を共有した。 ②地域政策局 地域振興担当部長 過疎対策や公共交通に長年携わってこられた立場から、公共交通は「鉄道の問題」として捉えるのではなく、地域で暮らし続けるための基盤として考えるべきであり、国・県・JR が一体となって向き合う課題であるとの認識が示された。また、JR は民間企業でありながら国鉄改革を経た公共性の高い存在でもあり、不採算路線の扱いについては地域や国民に納得のいく説明が求められるとの指摘があった。

さらに、利用がなければ投資できないという構造は現実としてあるものの、交通弱者の多い地域をどのように支えていくのかは行政の重要な役割であるとの考えが示された。再構築協議会についても、「3年ありき」で結論を急ぐのではなく、実証事業などを通じて地域にとって最適な公共交通のあり方を丁寧に議論していく必要があるとの認識が共有された。

③JR 西日本 広島支社副支社長

三次市・安芸高田市・広島市の3市により「まちづくり・交通協議会」を立ち上げ、各種事業とあわせて導入メニューの検討を進めていること、まちづくりの中での芸備線の役割を明確にしていく考えであることが示された。

また、来年度の早い時期に法定協議会へ移行し、計画に位置づけたうえで、最短1年を目途に具体的な協議を進めていく予定であること、さらに国の社会資本整備総合交付金等を活用しながら施設や車両の整備を進めていく方針についても説明があった。

加えて、三次駅などでは4両停車位置を想定したワンマン運転への対応を進めていることや、通勤時間帯における4両編成でのワンマン運行については人手不足が深刻であり、やむを得ない対応であるとの現状認識も示された。

【所見】

本意見交換を通じて、芸備線の問題は単なる鉄道の存廃にとどまらず、地域の持続可能性そのものに関わる極めて本質的な課題であることを改めて認識した。特に、「交通がなくなれば地域に住み続けられない」という視点は重く受け止める必要がある。

一方で、JRの経営的制約や利用者減少といった現実も共有されており、単に存続を求めるだけではなく、地域として利用を支え、関わり続ける姿勢が不可欠である。加えて、国の関与のあり方や制度的枠組みについても、より踏み込んだ議論が求められる段階に来ている。

今後は、再構築協議会や実証事業を通じて得られるデータや成果を踏まえつつ、まちづくりと一体となった公共交通のあり方を具体化していく必要がある。地域・自治体・県・国・事業者がそれぞれの役割を果たしながら、持続可能な交通体系の構築に向けて取り組んでいくことが重要である。